

第2学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 あいての考えを引き出すしつもんをしよう「あったらいいな、こんなもの」
(全7時間 本時3時間目)

2 単元目標

- ◎身近なことを表す語句の量を増やし、語や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。
- ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
- 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて…子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

- ・人の言動に何かを感じる姿
- ・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈聴く・話すについての指導〉

4月に話を聴くときに大事なことを考え、それを踏まえた「きき方あいうえお」があることを確認した。聴き方の合言葉として教室に掲示し、日頃から確認をしている。日常の中で友達の話をよく聴いて反応している児童がいたときには、全体に知らせ、「はんのう名人」として反応の仕方を教室に掲示するようにしている。よい反応を取り上げて日々追加していくことで、聴いたことに対して一人一人が考えをもつことができるようにしていきたい。最近では、挙手する際に「他にあります。」「似てる。」などの言葉やハンドサインを使って、友達の話に対する自分の考えを述べる児童が少しずつ増えてきた。

「話す」については、全体に自分の考えを伝える際、黒板や担任の方を向いて話す姿が多く見られる。その都度みんなの方を向くよう繰り返し指導しているところである。また、全体に発表するときには、例文を提示したり一人や少人数で練習をしたりしてから行うようにしている。安心して自信をもって伝えることができるようになってほしい。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

考えをもって話し合いができるように、一人でじっくり考える時間、近くの人と話し合う時間を取り入れるようにしている。ペアでの話し合いに少しずつ慣れてきて、すぐに話そうとする児童が増えてきた。相手の話質問をしたりあいづちをうったりしながら聴けるようにしていきたい。全体での話し合いでは、出てきた考えが誰のものか似ているかを考えさせ、比べるようにしている。

「お手紙」の学習では、自分の考えに近い意見が出たときに「似ています。」と自然に友達の話に付けたしをする姿が見られた。また、道徳では、自分の考えをいつ言えばよいかを考えて挙手する児童も見られ始めている。聴く時間と話す時間の切り替えができるよう指導しているところである。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領の A (1) エ「話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。」を目標としている。そこで、尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動を通して指導をしていく。

今回は、相手の考えを詳しく知るために、大事なことは何かを考えて質問することが活動の中心となる。「あったらいいなと思うまほうのどうぐ」を考えることは、児童が楽しく想像できる内容である。日常の困り感から考えて、友達と質問し合う活動を設定した。「まほうのどうぐ」は、今はまだないものであるため、初めはどのようなものか詳しくは決まっていなかったことが考えられる。そのため、「できること」「大きさ」「どう使うか」などを質問することで、話し手の「まほうのどうぐ」がより具体的な形になっていく。この対話を繰り返し、対話を基に整理して発表のためのメモを作れるようにしたい。

〈指導について〉

2年生では、「ともだちはどこかな」や「メモをとるとき」の学習で、大事なことを落とさないように集中して聴くこと、忘れないようにするためや相手に伝えるためのメモの取り方を学習している。メモは短い方が早く書けることを実感しているが、大事なことは何かを選択できず、メモとして長文を書く児童も数名いる。メモの取り方を確認し、改めて短く書くことの良さに気付かせたい。「お気に入りの本をしょうかいしよう」では、紹介メモを準備し、みんなに本の面白さを伝える発表会を行った。発表の際には、発表のしかたを確認したり練習をしたりしたが、メモは書けていてもそのまま単語を読み上げる児童もいたため、今回の発表会では、安心して発表に臨めるようにワークシートにある程度の話型の提示が必要だと予想される。また、全体でデモンストレーションをすることで、児童が具体的な方法をイメージできるようにする。

本単元では、誰もがもつ「困り感（困った・面倒・できたらいいのに）」からその希望を叶える「まほうのどうぐ」を考える。児童は、「こんなに便利なもの考えたよ。他の人に伝えたい。」という気持ちが芽生えるだろう。友達と質問をしあって、「まほうのどうぐ」を具体的に考えていくことで、発表会で伝える内容が充実していくと考える。振り返りを行いながら、道具が詳しくなっていく充実感を味わわせるとともに、児童の思いを汲み取っていききたい。

本時は、初めて自分が考えた「まほうのどうぐ」を友達に伝える場面である。聞き合う中で、「これはどうなっているんだろう。」という疑問が浮かんでくるだろう。そこで、その疑問を素直に質問し、友達の考えに反応しながら聴く姿をひびき合いの姿としたい。説明されたことや絵を見て分かる内容以外のことを質問できるよう、友達のまほうのどうぐを詳しくすることを目指せるようにしたい。

5 単元構想

第2学年国語科 あいての考えを引き出すしつもんをしよう「あったらいいな、こんなもの」全7時間

単元目標

- ◎身近なことを表す語句の量を増やし、語や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。
- ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
- 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

困ったこととか、面倒なこと、できたらいいなってことある？

- ・学校の準備が面倒。
- ・荷物が重くて困った。
- ・漢字がすぐ覚えられるといいな。

あったらいいなを考えよう①②

【態】身近なものから想像を広げ、あったらいいなと思うものについて考えている。(ワークシート・発言)

考えたものを最終的にどうするかを相談し、学習の見通しをもてるようにする。

- ・荷物が軽くなるかばん。
- ・1回書いたら覚えられるようになるノート。
- ・家の人のためにごはんを作ってくれるものにする。
- ・もう書くことがない！

- ・本紹介をしたみたいに発表したい。
- ・みんなに聞いてもらいたい。
- ・お家の人。発表の練習をしたい。道具のアドバイスをもらいたい。
- ・説明をもっと詳しくしたい。班でやればいいんじゃない。

しつもんをしながら まほうのどうぐをくわしくしよう③(本時)④

- ・何を質問すればいいかわからない。
- ・いつ使うか ・大きさは？
- ・どうやって動くか。 ・どう使うのか。
- ・少し詳しくなった。 ・他の人も聞いてみたい。
- ・使い方を考えてなかった。
- ・まだ発表できない。 ・練習しないと。

質問をする際、相手が話しやすくなる聴き方を確認する。

道具が詳しくなる質問はどのようなものかを振り返り、次につなげられるようにする。

【知】考えをより詳しくするための尋ね方や対話のしかたを理解している。(ワークシート・発言)
【思】相手の話を最後まで聞き、大事なことを考えて質問している。(ワークシート・発言)

はっぴょうのじゅんぴをしよう⑤⑥

タブレットか紙かを選択させ、図工の学習で、まほうのどうぐの絵を描く時間をとる。

- ・どれを言えばいいかな。
- ・すごく詳しくなった。
- ・もっとつけたしていいですか。

発表に必要な内容を確認しておく。

【態】質問を受けて、道具についてより詳しく考えている。(ワークシート)

まほうのどうぐはっぴょう会をしよう⑦

- ・それほしい！
- ・かわいいしとても便利だと思う。
- ・だれでも使えるの？

【思】友達の発表をよく聴き、質問や感想を伝えている。(観察・発表)

6 本時について

本時目標 相手の話を最後まで聞き、大事なことを考えてアドバイスや質問をしている。

学習活動	主な支援・留意点
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・のときはどうするか ・誰がつかうか ・どうやってつかうか ・いつつかうか ・大きさ </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>まほうのどうぐの絵 (例)</p> <p>形 色</p> <p>〈しつもんすること〉</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>アドバイスやしつもんをしあって まほうのどうぐをくわしくしよう</p> </div> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>まほうのどうぐ</p> <p>はっぴよう会をしよう</p> <p>れんしゅうしたい</p> <p>せつめいをくわしくしたい</p> <p>アドバイスがほしい</p> <p>☆どうぐを考える</p> </div>	<p>主な支援・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まほうのどうぐ発表会に活かせるように、考えていなかったことはメモをするよう伝える。 ・グループで順番に質問をしあう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>教師の出どころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や質問の仕方を、例をもとにデモンストレーションする。 ・振り返りを行い、どのような質問が道具を詳しくする質問となったかを確認する。 </div> <p>◆相手の話を最後まで聞き、大事なことを考えてアドバイスや質問をしている。【思考・判断・表現】</p>

7 実践を終えて

〈单元全体を通して・子どもの解決したい問題となったかについて〉

本单元では、児童の困り感（困った・面倒・できたらいいのに）をたくさん考えた後にその課題を解決できる道具を考えた。子どもたちにとって「困っていることが解決する」ということが魅力となり、「みんなに考えた道具を伝えたい。」という思いを引き出すことができた。さらに、初期段階は道具のことを大まかに考えるだけに留めたため、「アドバイスがほしい。」という思いが出てきたのではないかと考える。友達に相談をすることで、自分の話を聞いてもらえること、また道具がさらに詳しくなるということから、グループでの活動も意欲的に行う姿が見られた。メモを残し、視覚的にも詳しくなったという達成感を得ることができていた。

〈成果と課題〉

【成果】

- ・デモンストレーションでグループでの伝え合いの仕方を示したことで、子どもたちはやり方を理解して取り組むことができていた。答えられない質問が出たときにはみんなに相談をすればよいということも示したことで、答えられなくても大丈夫という安心感や道具がさらに詳しくなるという良い面を伝えることができた。友達の道具に興味をもって具体的に質問することができていた。
- ・単元の流れを示した掲示物があったことで、学習のゴール「まほうのどうぐはっぴょう会をしよう」に向けて何が必要なのか目的をもって活動していた。学習の最後を書く国語日記にも次は何をしたいかやその時間にできたことを振り返りとして記入していた。
- ・ワークシートの記入欄が少なめで簡単なものだったため、質問する必要性を引き出した。道具に合わせて様々な質問をしていた。

【課題】

- ・グループで質問をしている際、だんだんと道具から話がそれていく場面があった。道具を詳しくするための質問になるよう、デモンストレーションで示せるとよかった。また、「はい」か「いいえ」で答えられる質問もあまり道具が詳しくはならないので、「なんで」「どこで」「だれが」「どうやって」など話が広がる質問の良さをより伝えられるとよい。子どもたちが質問を吟味できるようになるとよい。
- ・道具の良さをより理解してくれるメンバーでグループを作れると、より質問が出たのではないかと。単元の4時間目で相談するメンバーを変えたので、そこで生かせるようにした。
- ・質問に答えてメモをするのは難しかった。しかし、メモを残すことで道具が詳しくなったという跡を残し、発表につなげられたので、やはりメモする必要はあったように思う。グループでの伝え合いの時間調整が大事であった。

